

「持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議」について

～ あなたの毎日が、未来になる ～

ESDの10年・地球市民会議2013
2013年10月18日



文部科学省国際交渉分析官 岩本 涉
(日本ユネスコ国内委員会事務局)



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

- I 国連持続可能な開発のための教育の10年
- II 教育振興基本計画におけるESDについて
- III 「持続可能な開発のための教育(ESD)に関する
ユネスコ世界会議」について
- IV 2014年以降のシナリオ
- V 日本ユネスコ国内委員会の議論



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,

SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

I 国連持続可能な開発のための教育の10年

国連持続可能な開発のための教育の10年

(United Nations Decade of Education for Sustainable Development)

- 2002年 ヨハネスブルクサミットで我が国が提案
- 2002年 国連決議(第57回総会)
 - ・ 2005～2014年の10年
 - ・ ユネスコを主導機関に指名
- 2005年 DESD国際実施計画をユネスコにて策定

全体目標：持続可能な開発の原則、価値観、実践を、教育と学習のあらゆる側面に組み込んでいくこと

- 2009年 ESD世界会議(ボン)
 - ・ ボン宣言の採択
- 2014年 持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議 (愛知県・名古屋市／岡山市)

Ⅱ 教育振興基本計画におけるESDについて

教育振興基本計画(平成20年7月1日閣議決定)

第3章 今後5年間に総合的かつ計画的に取り組むべき施策

(1) 基本的考え方

② 「縦」の接続: 一貫した理念に基づく生涯学習社会の実現

また、ユネスコ(国際連合教育科学文化機関)においては、地球的視野で考え、様々な課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組み、持続可能な社会づくりの担い手となるよう一人一人を育成する教育(「持続発展教育/ Education for Sustainable Development(ESD)」)が提唱されており、2005年から2014年までの10年間は、「国連持続発展教育の10年」と位置付けられている。地球的規模での持続可能な社会の構築は、我が国の教育の在り方にとっても重要な理念の一つである。

(3) 基本的方向ごとの施策

④ いつでもどこでも学べる環境をつくる

【施策】

◇ 持続可能な社会の構築に向けた教育に関する取組の推進

一人一人が地球上の資源・エネルギーの有限性や環境破壊、貧困問題等を自らの問題として認識し、将来にわたって安心して生活できる持続可能な社会の実現に向けて取り組むための教育(ESD)の重要性について、広く啓発活動を行うとともに、関係府省の連携を強化し、このような教育を担う人材の育成や教育プログラムの作成・普及に取り組む。特に、ESDを主導するユネスコの世界的な学校ネットワークであるユネスコ・スクール加盟校の増加を目指し、支援する。

第2期教育振興基本計画(平成25年6月14日閣議決定)

第1部我が国における今後の教育の全体像

Ⅲ 四つの基本的方向性

(1) 社会を生き抜く力の養成～多様で変化の激しい社会での個人の自立と協働～

(今後の学習の在り方)

○持続可能な社会の構築という見地からは、「関わり」「つながり」を尊重できる個人を育成する「持続可能な開発のための教育(E^SD)」の推進が求められており、これは「キー・コンピテンシー」の養成にもつながるものである。

第2部今後5年間に実施すべき教育上の方策

I 四つの基本的方向性に基づく方策

1. 社会を生き抜く力の養成

(4) 生涯の各段階を通じて推進する取組

基本施策11 現代的・社会的な課題に対応した学習等の推進

【基本的考え方】

○現代的、社会的な課題に対して地球的な視野で考え、自らの問題として捉え、身近なところから取り組み、持続可能な社会づくりの担い手となるよう一人一人を育成する教育(持続可能な開発のための教育:E^SD)を推進する。

【主な取組】

11-1 現代的・社会的な課題等に対応した学習の推進

ユネスコスクール の 質 量 両 面 に お け る 充 実 等 を 通 じ 地 球 規 模 で の 持 続 可 能 な 社 会 の 構 築 に 向 け た 教 育 (持 続 可 能 な 開 発 の た め の 教 育 : E^SD) を 推 進 す る 。

Ⅲ 「持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議」について

(1) 愛知県名古屋市で開催される閣僚級会合及び全体の取りまとめ会合は、国内外から数十名の閣僚を含む約1000人規模の会合であり、「国連持続可能な開発のための教育の10年」の活動を振り返るとともに、2014年以降の方策について議論を行う。

2014(平成26)年11月10日(月)～12日(水)

なお、11月13日(木)には上記会合の趣旨を踏まえ、日本国内の関係者によるフォローアップ会合を開催する。

(2) 岡山市で開催される各種ステークホルダーの主たる会合としては、

① ユネスコスクール世界大会

国内外から高校生と教員200名を招へいし、ESDに関する議論を行う。

2014(平成26)年11月6日(木)～8日(土)

② ユース・コンファレンス

国内外から青年を数十名招へいし、ESDに関する議論を行う。

2014(平成26)年11月7日(金)

③ 持続可能な開発のための教育に関する拠点の会議

2014(平成26)年11月4日(火)～7日(金)

これらの成果は上記(1)の閣僚級会合及び全体取りまとめ会合に反映させる予定。

■ 持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議 — 持続可能な未来に向けて今学ぶ —

1. 10年間の活動の成果
— 何を達成できたか、また、どのような教訓が得られたか —
2. 万人のためのより良い未来を築くための教育の新たな方向付け
— 持続可能な開発のための教育(ESD)は質の高い教育の強化にどのように役立つのか —
3. 持続的な開発のための行動の促進
— 持続可能な開発のための教育(ESD)を通じて、持続性という課題にどのように取り組めるのか —
4. ポスト2014のための持続可能な開発のための教育(ESD)アジェンダの作成
— 私たちの共通の未来のための戦略とは —

■ ESDに関するユネスコ世界会議の成果について (ユネスコ事務局案)

「ESDに関するユネスコ世界会議」の最終日の全体会合では、宣言の採択を得て、ステークホルダーからのコミットメントを含めた「ESDに関するグローバルアクションプログラム」のハイ・プロファイルな発表を実現する。

宣 言

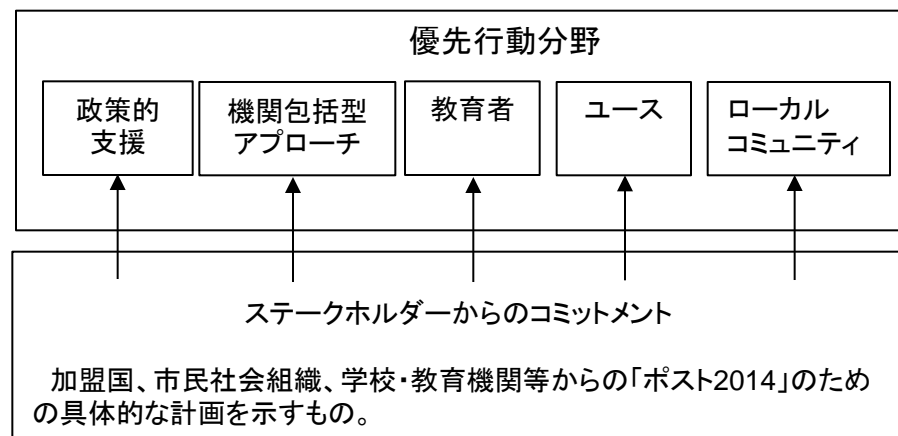
ISGに諮りつつ、ユネスコによって事前に草案が作成され、「ESDユネスコ世界会議」での議論を踏まえて内容が固められる。

- (1) UNとりわけユネスコの位置付けを明確にしつつ、DESD以降にESDを更に発展させるための政治的な関与を確認する。
- (2) 質の高い教育の不可分の要素としてのESDを強化する。
- (3) 持続可能な開発のための触媒としてESDを強化する。
- (4) ESDに関するグローバルアクションプログラムを開始する。

ESDに関するグローバルアクションプログラム

「国連ESDの10年」の後継プログラムとしての位置付けであり、「ESDユネスコ世界会議」で下記5点を優先分野として発表される。

各ステークホルダーからのコミットメントは、テンプレートを用いて収集される。



IV 2014年以降のシナリオ

- 2012年秋(第190回執行委員会)
World Programme Framework > 新しい「10年」
- 2013. 11(第37回ユネスコ総会)
Global Action Programme 案の策定
- 2014. 11(ESDに関するユネスコ世界会議)
Global Action Programme の発表
- 2014秋(第69回国連総会)
Global Action Programme の承認
- 2015年春(第195回執行委員会)
ESDに関するユネスコ世界会議の成果の国連総会提出を決定
- 2015年秋(第70回国連総会)
ESDに関するユネスコ世界会議の成果を承認

ESDに関するグローバルアクションプログラム (2015-) [案] について

1. 目的

グローバルアクションプログラムは、持続可能な開発を加速するために、教育・学習の全ての段階・分野で行動を起こし強化するためのものである。この目的は、二つの目的がある。

- (1) 全ての人々が知識、技能、価値観、態度を得る機会を持つために、教育・学習を再方向付けし、持続可能な開発に貢献するよう能力向上すること。
- (2) 持続可能な開発を促進する全ての関連アジェンダ・プログラム・活動において、教育・学習の役割を強化すること。

2. 優先分野

グローバルアクションプログラムは、戦略的に焦点を合わせ、ステークホルダーのコミットメントを可能とするために、5つの優先行動分野に焦点を合わせる。

- (1) 政策的支援
- (2) 機関包括型アプローチ
- (3) 教育者
- (4) ユース
- (5) ローカルコミュニティ

V 日本ユネスコ国内委員会の議論

■我が国におけるユネスコ活動の活性化について

学校教育・社会教育等を通じた持続発展教育(ESD)の一層の推進

- 1) ユネスコスクールの枠組み以外に学校教育においてESDを推進する方策は何か？
- 2) ユネスコスクールを取り巻く地方自治体(首長部局と教育委員会の連携を含む。)、ユネスコ協会、大学、国連大学、NGOの役割をどう高めるか？
- 3) 国内外のユネスコスクール間の交流を、いかに推進していくか？
- 4) ESDの普及・推進に当たり、学校と地域の連携強化をどのように図るか？
- 5) ESDを活性化する上で、サステナビリティ・サイエンスに基づく研究成果をどのように活用するか？
- 6) 公民館、博物館等の社会教育活動や企業活動の中でどうESDを推進していくか？

■ グローバル人材の育成に向けたESDの推進について

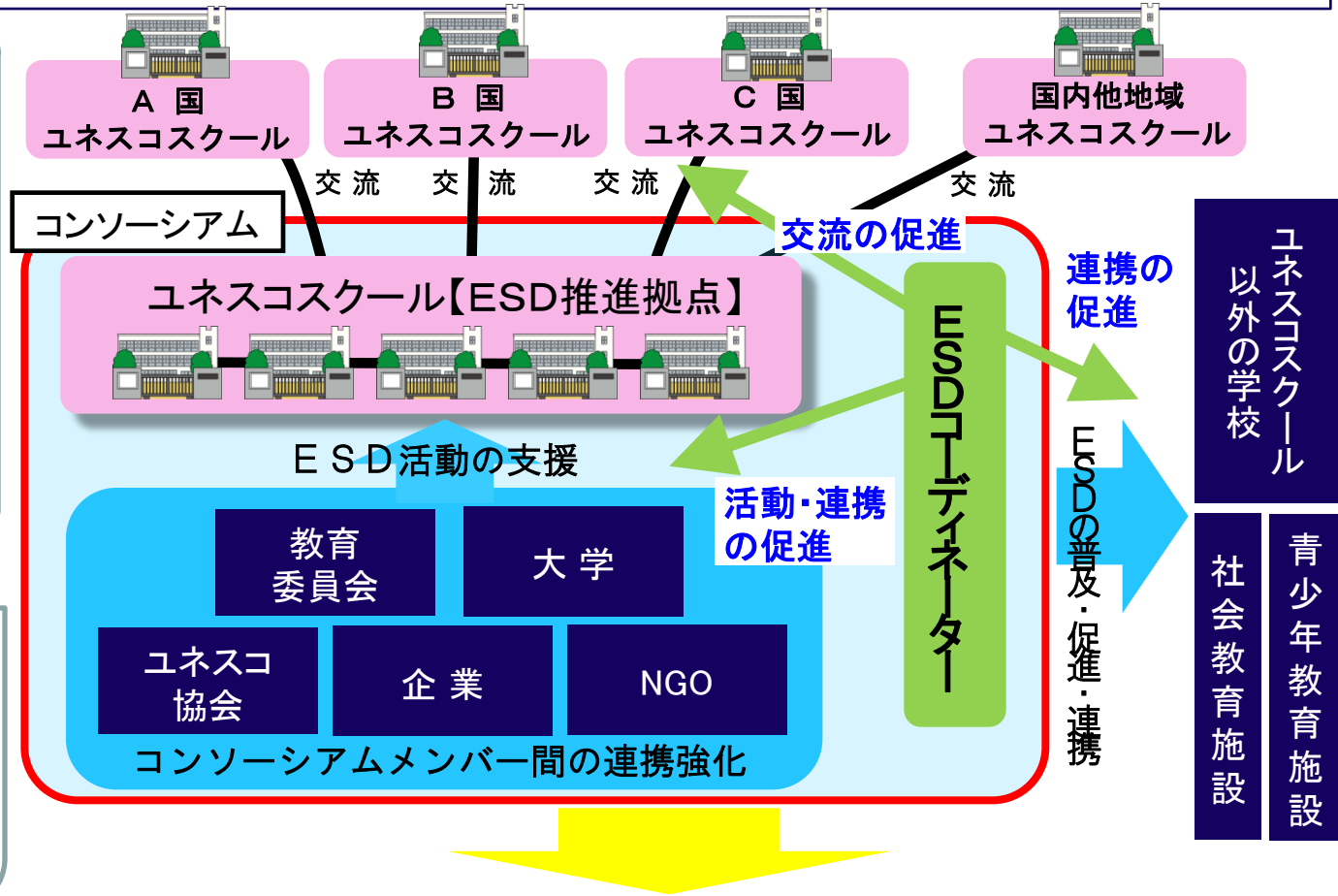
教育委員会及び大学が中心となり、ユネスコ協会及び企業等の協力を得つつ、ESDの推進拠点であるユネスコスクールとともにコンソーシアムを形成し、ESDの実践・普及及び国内外におけるユネスコスクール間の交流等を促進する。コンソーシアムに置かれるESDコーディネーターにより、教育委員会、大学、ユネスコ協会及び企業等のコンソーシアムメンバーの活動・連携の促進、学校、社会教育施設等の県内でのESDに関する連携強化及び国内外における交流の円滑化を図る。

コンソーシアムの機能

- ・国内外の学校との交流促進・ESD活動の支援
- ・コンソーシアムメンバー間の連携強化
- ・社会教育施設等との連携強化
- ・県内の学校等へのESDの普及・促進

ESDを通じて育まれる力

- ・持続可能な開発に関する価値観
- ・体系的な思考力
- ・代替案の思考力
- ・データや情報の分析能力
- ・コミュニケーション能力
- ・リーダーシップの向上



国内外における交流の円滑化、ESD活動の一層の推進

ご清聴ありがとうございます

iwamoto@mext.go.jp

日本ユネスコ国内委員会Webサイト

<http://www.mext.go.jp/unesco/>

日本ユネスコ国内委員会Facebook

<http://www.facebook.com/jpnatcom>

ESD Facebook

<https://www.facebook.com/esd.jpnatcom>

政府インターネットテレビ「徳光 & 木佐の知りたいニッポン！」

<http://nettv.gov-online.go.jp/prg/prg8095.html>



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,

CULTURE, SPORTS,

SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN